

## 情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年6月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	パン・菓子製造業	猛暑は、業界にとって厳しいものがあります。
	調味材料製造業	出荷量は、4月度の増加の反動で、前月比、前年同月比ともに大幅に減少し、低水準に止まった
	パン・菓子製造業	百万石まつりのお菓子「珠姫でまり」のPR活動を実施し、菓子の売上増を図ったが、景気が目に見えて好転せず、横這い状況にある。
繊維・同製品	その他の織物業	一部にやや持ち直し傾向が見られるが、二極化の進行と思われる。依然として深刻な状況が続いており、前年度と比較にならない。
	織物業	企業間格差があり、今後益々差が出てくるように思われる。
	織物業	絹分野では信用不安による売れ行き悪い状況が続く中、日本文化の見直し、きものへの感心が高まりを見せ、需要拡大が期待されるが、多品種、少ロットの発注に終始し、また平成17年1月1日より絹織物の輸入が自由化され、これまで停滞気味であった中国和装生産が、再活性化の動きも見られるなど不安材料が多く、厳しい採算性で推移している。合繊分野では、デザイン性のあるインテリア、極細分織織物など差別化衣料で好調なものも点在し、提案企画品の注文があり、生産量増回復傾向はいくらか見られるようになってきているものの、強い低コスト要請や開発費の増大などにより、採算性の改善には至っていない。
	ニット生地製造業	状況は7月一杯まで変わらない。操業率は前年同月よりアップ気味だが、工賃が伴わず、忙しい割には儲からない傾向が続いている。
	その他の織物業	当月も、4月度・5月度同様に、底値安定型に推移している。受注・生産・販売ともに増加は見られず、大幅な落ち込みでもない状態が続いている。当面は、様々な経済指標からもこのような状況が継続すると考えざるを得ないであろう。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	総体的には横這いの景気状況。これからの時期は、档「能登ヒバ」においては、天候の関係で日われが生じるので、出荷量、需要ともに減少する。
	製材業、木製品製造業	6月度は、先月の5名の欠員に加え、もう1名計6名の退職者を出し、加工能力に支障をきたしており、非常に弱っている。
窯業・土石製品	砕石製造業	出荷量は、対前年同月比全体量で、43.6%と大きく減少した。第1四半期では、対前年同期比全体量で、38.1%と非常に厳しい状況であった。第2四半期の需要見込みも明るい材料がなく、益々厳しさが増す状況である。
	陶磁器・同関連製品製造業	名古屋での見本市に続き、7月1日より東京ドームでお宝市場を開催するなど首都圏での発信を行っている。JAPANブランド育成支援事業の指定により、特に海外向け商品開発の検討を進めている。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリート出荷状況は、6月末現在で前年同月比80%。4月～6月の累計でも76.4%と前年同期に対し、相変わらず低調に推移している状況である。
	粘土かわら製造業	重油、ガスの値上がりで、コスト高となり、今後値上がりが続くようなら大変厳しい状況となる。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	活況である事は間違いないことであるが、鉄工関係では、鋼材の値上げ、鋳物・ステンレス関係値上げで、原価高になるものが多くなっている。豊作貧乏にならなければよいのだが。
	非鉄金属・同合金圧延業	金沢箔の主要取引先である仏壇仏具業界は、他の業界において景気の上昇を反映し、不良債権が減少し、景気全体のムードを高めているものの、現時点では、特に変化が見られない。
	鉄素形材製造業	中国のバブル経済に影響されて景気浮上の足掛かりを得たものの、ここにきて政策変更で少々足踏み状況である。ここをどう乗り越え、次のステップを迎えるか、原材料、副資材の値上がりが続く中、当業界もここが正念場である。
	鉄素形材製造業	団地内企業の従業員数を調査したところ、昨年同期よりも数社において減少している結果であった。これはリストラ等ではなく、定年等による自然減の補充をせず、材料の高騰を吸収し、収益面(収益率)の低下を抑える一手段と思われる。
	機械器具の生産	大手企業からの仕入材料アップが一部認められ、一応収益が好転した。
一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	自動車関連の好調さを反映して、工作機械は引き続き海外を含め好調。一方建設機械や繊維機械の好調さは中国で若干一服感も見られる。次期オリンピック景気の盛り上がりも期待されるが、いずれにしても中国のバブル崩壊が今後の懸念材料である。又、原材料、石油の価格高騰による折角の好況感に水を差されている状況であり、景気の波を左右する設備投資意欲の減少が危惧される。
	プレス、工作機械	中国の金融引き締めが影響してか、中国向け鍛圧機械の商議の進捗に時間がかかっている。但し、計画された設備の設置は不可欠であり、成約の暁には、短納期が要請されるため、一層リードタイム短縮活動を進める必要がある。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年6月分)

	機械金属, 機械器具の製造	中国向け輸出が足踏みしている繊維機械関連を除けば、受注状況は極めて好調といえる。交代制勤務要員の確保や、生産効率向上に留意している。サブアッセンブリーでの受注や完成品一式での受注が見られるようになり、それに伴って、生産体制や工場レイアウトの検討が必要となっている企業も出て来ている。
その他の製造業	漆器製造業	近代漆器業界の市場は、依然として悪化が続いている。又、伝統漆器も依然として回復の兆しが無い。外国の廉価な木製品も売れ行きが頭打ちである。特に夏は漆器全体が落ち込む時期であり、販売が減少している。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	新年度より月を追って売上が減少していると聞く。特に絹織物(和装)は、「和」のブームと言われているにも係わらず、我が産地が製造する襦袢地に、好影響を与えていない。新盆、旧盆とこれから不需要が続く、更に苦戦を強いられる様である。
	農畜産物・水産物卸売業	相変わらず売上減少が続く。需要が伸びなく、単価が低下しているためと思われる。
	一般機械器具卸売業	エアコンの夏場商戦が始まっていますが、4・5月はあまりパツとしましませんでした。6月中旬頃から動き始めました。電材卸業で扱う年間のエアコンの台数は約15,000台位ですが、この夏場シーズンで約50%の8,000台を販売します。价格的には平均4万円位で、新触媒(フロンガスなし)の関係で例年より5,000円位値上がりしていますが、量販店の安値販売が続行中で値崩れは必至です。
小売業	燃料小売業	原油価格はピークと比較すると少し下がっているが、依然として高値状態を続けている。6月は今までにない大幅な仕切り価格の上昇だった為各社4~5円の幅で小売価格に転嫁した。4月以降給油所が減少する一方で、セルフ式給油所は新設・改装を問わず依然として増加傾向にある。一段と価格競争が激しくなりそうである。
	機械器具小売業	6月は各販売会社の合展開催と、梅雨の中休みの好天に恵まれ、RA、冷蔵庫の夏物商品を初め、DVDプレーヤーも好調。大型テレビの動きも回復しつつあり、地域店ルートも久しぶりに110%位の伸びを確保できた。4~6月累計でも前年を僅かながらオーバーした。7月の暑さとオリンピックによる需要回復に期待したい。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	中旬以降好天に恵まれ、夏物季節商品全部門が順調に推移し、前年売上高をクリアした。但し、販売単価は依然として低価格志向であった。
	鮮魚小売業	平年に比べ、天候がかなり不順だった。台風が続き、高温多湿であった。この事は、直接人間の食の本能にマイナスに影響するように思われる。結論として魚が余り売れなかった。
	他に分類されない その他の小売業	6月の観光客は減少し、苦戦でした。
	百貨店・総合スーパー	6月の売上実績132,174千円。予算費82.1%。前年比88.5%と過去になく悪かった。原因の一つとして、日曜日の数が1回少なかったことがあるが、高額商品を扱っている店舗の売上減が大きな原因であると思う。30日間の営業の中で、前年をクリアした日は5日しかなかった。
	米穀類小売業	食糧法が改正された事をきっかけに、米業界にいち早く建設会社が参入してきて驚いた。建設会社5社が共同で、農業生産法人を設立し、この春から化学肥料や農薬を使わない米の生産販売を始める。法人名は「ヒーロー」で、この様な「英雄」が各地で出没するのが...。驚いては手遅れになりそうである。
	商店街	近江町市場
尾張町		異常なのは景気や政治だけでなく、天候もそうらしい。雨が降るべき梅雨が来ず、いつまで経っても梅雨入りがなく、ずるずると梅雨明けのような...。あげくの果ては、真夏日のような熱帯夜が始まる始末。これでは、季節商品も何もあったものではなく、街に溢れるバーゲン商戦からお中元商戦も肩透かしをくらったような感じになっている。こんな時は、変動原因に左右されない固定客をいかに持つかが大きな力強さとなるだろう。
サービス業	旅館、ホテル	5月の連休後から、金沢市内の宿泊施設は低調で、6月の「百万石まつり」でも宿泊客増につながらなかった。
	旅館、ホテル	一部の大企業における景況感の戻りが言われているが、中小企業の景況感依然として悪い様相であり、そのあたりが良くならないと、温泉や全体の状況がなかなか出てこない。
	自動車整備業	継続検査対象車両数は、前年同月比2.2%減、前月比では14.2%増。新規登録車両は、前年同月比8.8%減、前月比では19.3%増で推移している。
	洗濯業	昨年比3%増加でした。一般クリーニング、リネン共に好転だったが、旅館関係の収益状況が悪い。
	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は、前年同月比の4.4%の減となった。内訳としては、民間土木40.4%の増、民間建築42.9%の増となり、民間としては42.4%の増となった。公共土木46.2%の減、公共建築23.8%の減となり、公共としては42%の減となった。ここ数ヶ月、特に公共土木の落ち込みが著しい。

非  
製  
造  
業

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成16年6月分)

建設業	鉄骨・鉄筋工事業	稼働率70%。組合員間格差がある。、地域間でも能登地区で受注量が少ない。
	板金・金物工事業	やや新築工事が増加しているが、夏期にかけて、もっと受注工事に期待したい。
運輸業	一般貨物自動車運送業	6月に入り、燃料の軽油価格が一挙に高騰し、4月以降の段階的値上げを含め、経営環境を猛然と圧迫してきており、収受運賃が下がる一方の我々業界は、今後どのような対応をしていくか頭を悩ませているなか、7月に入っても軽油価格は上昇していくようであり、頭の痛いところであるが、ダンプカーの稼働率が若干良くなったようである。
	一般乗用旅客自動車運送業	規制緩和後2年、車両増にも係わらず(新規参入、増車による)、新車導入は減少(昨年比新規96.2%に対し、継続検査102.4%と増加しており)、経費を削減し、労働対価による増収を見込んでいるのが業界の実態である。従って、運転者の平均年齢も上がり続けている。(若年労働者の比率が他の業種と比較すると低い)運賃の低額化競争により、業界間をはじめ、個々に対する不信感(溝が深まった)が増幅し、組織を離脱する傾向が深まってきた。
	一般貨物自動車運送業	本年度に入り4月・5月と比較的好調であったので、当月はお中元商品の荷動きも期待していましたが、予想に反して低調で前年並みであった。軽油価格はリッター当り3~4円と大幅値上がりしており、採算は一段と厳しくなっている。このような状況のなかで、更に運賃引き下げを要求してくる荷主もあり、その対応に苦慮している。